

3 静浦地区小中一貫校設置に向けた検討課題

静浦地区小中一貫校を設置するに当たっては、以下の課題が考えられる。今後、地域住民や保護者の意見も十分に踏まえ、これらの課題について十分検討し、対応していただきたい。

(1) 通学時の子どもたちの安全性

小中一貫校を、静浦地区の中間点である大久保に建設すると、現状より通学距離が長くなる子どもたちもいるが、国道 414 号線は交通量が非常に多く、歩道が整備されていないため、子どもたちの通学時の安全確保が不可欠である。スクールバスの運行や路線バスの利用及び通学路の整備など、子どもたちが安全に通学できるよう検討していただきたい。

<検討委員の意見から>

- 学校統廃合により、通学距離が長くなる上、国道 414 号は交通量が多く道が狭い。海岸線は風雨も強い。スクールバス、路線バスの利用を考えたい。
- 現在の制度では、通学費の補助対象にはならないが、通学路がないことや、交通量が非常に多いことなどから、児童生徒の安全確保のために学年を問わず、路線バスの利用を認め、補助対象にしてほしい。
- 国道 414 号の歩道は、側溝にふたをただけのもので、小学生が通うのは危険であるので、歩道の整備が必要である。

(2) 地域の活性化への配慮

学校の統廃合に伴い、地域から学校がなくなる地区については、地域活動への影響が心配される。

また、現在の小中学校は、災害時における前線基地及び第一次避難場所に指定されている。

そこで、学校跡地を地域コミュニティ活動の場及び災害時の避難地として引き続き利用できるようにするなど、地域住民にとって有効な活用法を検討していただきたい。

<検討委員の意見から>

- 地域活動への影響がでないよう、学校の跡地利用を考えることが必要である。学校跡地を地区の住民のための施設にしてもらいたい。
- 学校の統廃合により災害時の避難場所が遠くなってしまうので、今までの避難場所についても引き続き利用できるようにしたい。
- 新しい校舎を建設するに当たっては、津波が心配される場所であるので、校舎の津波対策を講じてほしい。
- 学校が遠くなると隣接校に通う子どもが増え、子供会や自治会が分断されてしまうことが心配される。

(3) 小中一貫校開校までの当面の課題

小中一貫校は一刻も早く開校してほしい。また、開校までの間に予想されるさまざまな課題について、最善の方策を検討する必要がある。

特に、静浦中学校の早期移転を含めた安全対策や平成 22 年度に見込まれる静浦小学校と静浦東小学校の複式学級発生への対策として、二つの小学校の一次的な統合など、対応を検討していただきたい。

<検討委員の意見から>

- 小中一貫校の開校前においても、複式学級の発生は避けてもらいたい。
- 小中一貫校の開校までの間の静浦中学校の安全について対策をしていただきたい。
- 保護者や地域の住民に広く情報を公開しながら、静浦地区小中一貫校の検討を進めてほしい。
- 小中一貫校には、放課後児童クラブを併設してほしい。